

### 春のお彼岸ご案内

三月二十日(お中日) お花の用意をしております。  
おローソク・お線香は墓苑にて常備しております。

#### お花の予約は

なるべく予約でお求め下さい。

#### 予約電話番号

前日までの予約 一六七―九四〇二  
当日朝の予約 一六〇―五二四九

#### 墓前読経

二十日(お中日)のみ承ります。  
午前八時半より十二時  
午後一時より五時半迄

#### お墓のクリーニング・補修

○お墓の掃除が自分で出来ない  
○お墓の汚れがひどい  
○お墓の目地が傷んでいる等々  
別紙でご案内いたしますのでお気軽にご相談下さい。

### 瑞林寺の案内

#### 春のお彼岸 法要と法話

三月十八日(水) 十時半〜三時  
お齋あります

#### 毎月の聞法会

- 二十八日講 午後二時三〇分より  
『正信偈』に聞く
- 宝池の会 第3火曜日  
午後二時より  
『歎異抄』に学ぶ
- お経の練習会 第3水曜日  
午後七時より
- 仏教青年会 第2火曜日  
午後七時

#### 毎月の行事

- 寺小屋習字教室月 金曜日  
子どもたち集まれ!
- 日曜学校 毎週日曜日  
午前八時半〜  
親子でどうぞ!
- ゴスペルコーラス  
第2・4水曜日 午後7時  
運動不足のお父さんどうぞ!
- フットサル  
毎週火曜 午後9時

### あとがき

◇春を迎えましたが、世の中の実態はますます冷えきるばかりで、百年に一度といわれる冬の厳しい寒波は世界を襲って、地球を凍土と化しております。

◇冬が終われば、必ず春がきて夏にむかう。景気も底をつけば必ず反転してもち直す、という景気循環説、さてこの常識どおりに世界はひらけるのでしょうか。

◇限りなき人間の欲望は、進歩発展、便利と豊かさの無限の拡大に暴走を重ねてきました。

◇今、限りあること、有限の二字の学習の時代の始まりであるかもしれせん。

◇世の経済学者も経済人も、政治家も官僚も、この不測の事態に直面してあわてふためき、世界中の頭脳を集めても、その收拾の方策さえ見えてこない今日、人間の根本的姿勢が問われていきます。

◇外に可能性を求める視点から、現実にも真正面に向き合う、外の目を転じて内に向かう時代の到来、映画「おくりびと」のアカデミー賞の受賞もそれを暗示しているのでしょうか。

### 無一物

私は七十年前  
何も持たずにこの国にきた  
もうじき  
また何も持たず  
帰らせていただく

榎本 栄一

詩集

念仏のうた

「難度海」

<p>浄土真宗 瑞林寺 坂井輪 墓苑だより</p>	<h1>無量寿</h1> <p>(親鸞聖人御真筆)</p>	<p>第43号 平成21年3月10日 発行人 〒951-8133 新潟市中央区川岸町1丁目48 (相沢企業内) 坂井輪墓苑管理事務所 TEL 025-267-9402</p>
---------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



釈迦如来坐像 1~2世紀 パキスタン、ガンダーラ出土 片岩 高52cm ベルリン、インド美術館



# 裸で生まれ裸で帰る わが家 お浄土

瑞林寺前住職 廣澤憲隆

生まれたときも裸、死ぬときも裸。これが実際の人生。なにか生きて来た証しを残して手土産をもって旅立ちたくとも、なにひとつ手に持つことのできないのが人の命。

栄光の人生も悲惨な人生も死の前には無力であり、これはまただれにでも平等に訪れる。華やかな人生を送り盛大な葬式も、苦汁に満ちた一生の寂しい別れの式も同じく裸ひとつ。

生前の裸に着けた衣装は人によって千差万別であつても、焼かれて残ったお骨にはなにの違いはありません。

世間の時の流れの早さは、私とはまったく無関係に、私という存在を忘却の彼方へ葬つて、街の風景はなに一つ変化することなく、淡々と時を刻んで流れてゆく。

## 関係の断絶が死

生きているとは「他との関係をもっている」ことです。赤ん坊がこの世に誕生して、まず関係を持つのがお母さんであり、最初に触れるのがオッパイです。初めて見渡す世界はベットの空間からこの世が始まります。

人の世界もみな「私との関係」の広がりやその濃密さによつて社会のなかに生きる一人の人間としてあゆむ人生があります。それは人のみならず社会や自然環境から風土歴史にまで関係は及びます。これが世間です。その私とかかわる一切の関係が、今私の目の前から全く

消え失せてゆく、関係性の断絶が死にほかなりません。その意味で私が関わつてきたこと、すなわち誕生から今日までの一切の見聞覚知したこと―経験―は私の肌を染め抜いて、私の身体と一体となつていますから、何十年と重ね着した衣装を脱ぎ捨てることは、執着と未練にさらされる至難の技であります。

## 家なき子を迎える阿弥陀仏

生きている間、必死に重ね着をした衣装が剥ぎ取られ、もとの裸ひとつに戻つた私。関係性がまったく断たれて一人ほうり出された単独の私。手にはなに一つ持つこともできない空手の私。

その私自身にはどこにも安心して帰る故郷、わがすみかを持たない家なき子。苦勞を重ねた生涯の果てを、ご苦勞さんと両手で迎えてつてくれる親のない孤児親なし子。これが死の鏡に映しだされた人間の偽らざる真相です。

人生の旅も、帰るわが家を持たないならば、たとえ栄華を極めた人生であつたとしても、それは放浪の旅にしかすぎません。

このような人間の苦惱の悲惨さに、いたたまれぬ悲痛の嘆きの底から湧き出された仏が阿弥陀仏です。

阿弥陀仏のお浄土は、人生の荒波にのまれながら浮き沈みくり返して航海の旅を終えた対岸で、ご苦勞さまと善悪貧富など差別なく、裸のわが子を無条件にしっかりと抱き取る大悲の胸ふところ、裸ひとつの私が安心して帰るわが家がお浄土です。

浄土は、どんな孤児も安心して休息できる故郷であり、英気を養つて、また同じ苦惱する人々を一人でも救おうと立ち上がる新たななる仏の誕生の場所です。

# 聖典を読む

親鸞聖人の

## 正信偈の二箇所 (5)

普放無量無辺光  
無礙無对光炎王  
清浄歡喜智恵光  
不斷難思無称光  
超日月光照塵刹  
一切群生蒙光照

よみかた

あまねく無量・無辺光、  
無礙・無对・光炎王、  
清浄・歡喜・智恵光、  
不斷・難思・無称光、  
超日月光を放つて  
塵刹を照らす。  
一切の群生、光照を蒙る

意味

悩み苦しむものを救いとる  
南無阿弥陀仏の六字のみ名は  
無量光仏・無辺光仏・無礙光仏・  
無对光仏・炎王光仏・清浄光仏・  
歡喜光仏・智恵光仏・不斷光仏・  
難思光仏・無称光仏・超日月光仏  
の十二の光の徳とはたらいて  
無明の衆生の闇を破り  
世界を照らして光のとどかぬ  
ところはありませぬ

## 呼ばれて呼ぶ母の名

言葉は記号ではありません。こ  
とば自身の中身の意味を表わしま  
す。以前流つた歌に、  
“こんには赤ちゃん私はママよ”  
ということばがあります。

ママよ、と名乗つてわが子に呼  
びかける母、そこに慈愛に満ちあ  
ふれた安らぎと安心、なにも求め  
る必要のない安楽休息の世界があ  
ります。

南無阿弥陀仏の六字のみ名は私  
がママよ”と、どんな状況にある  
人をも安楽世界に導きたいという大  
慈悲のこもつたよびかけの名です。

童謡にまた、

“なんにもご用はないけれど、  
呼んでみたいなお母さん”  
という句があります。

子が母を呼ぶ、呼ぶことそのま  
まに、安らぎと落ち着きの世界が  
与えられ、私を抱いて放さぬ母の  
愛の胸につつまれます。

名を称する、称名、念仏申すこ  
とがそのまま救われる信心の世界  
といわれることです。

名を呼び、称えるままに、母の  
胸に帰り、母の温もりにふれる。  
念仏申せば仏の大悲にふれ、愛  
に満ちた世界、浄土の光が照ら  
します。

## 名は光なり

念仏は呪文でもありません。唱  
える数や力の功德でもありません。  
称えるままに安心の世界がそな  
わり、与えられることです。

ママと呼べはそこに母がおりま  
す。名は光となつて、何時でも、  
どこでも、だれにでも、呼んで欲  
しいと待ちつづけるのが母の愛、  
阿弥陀の大悲の本性、願いです。

仏の名は闇のなかに迷い苦しみ、  
煩悶苦闘するものへの一陣の光で  
す。

ひとたび光がさせば、いかに深  
い闇も一瞬にして晴れ夜は明ける。  
この名のもつ光の効用功德を、  
今十二のはたらきをもつて讃えら  
れるのが十二光仏さまです。

過去現在未来を照らす無量光仏、  
どこまでも果てしなく照らす無辺  
光仏、障えるものない無礙光仏、  
絶対の光無对光仏、煩悩を焼き尽  
くす光炎王仏、煩悩の垢を除く清  
浄光仏、苦を除き喜びを与える歡  
喜光仏、無明を破る智恵光仏、休  
むことなく常に照らす不斷光仏、  
人間の思いを破つて働く難思光仏、  
ことばで表現しきれないはたらき  
の無称光仏、日や月の光も及ばぬ  
優れた光の故に超日月光仏として、  
闇に惑う苦惱の私たちの救いを約  
束されております。